



「日本人が捨てている食料で、5千万人の飢餓に苦しむ人をたすけられることを知った。」

「日本を買う国であり、捨てる国であることはショックだ。」「私たちの一人ひとりの意識がたくさんの人の命を左右するのだと感じた。」

「聞いたことがない国で、貧しい国などから輸入していて、それを知らずに食べていることはとても恥ずかしい」—日本女子大学人間社会学部教育学基礎演習「食べ物はどこから・フードマイレージを学ぶ」のSOE授業から—

11月27日(金) 2時限にセンスオブアースの出張授業をおこなった。担当教授は、田中雅文先生である。田中教授は研究分野の中で環境教育に異彩を放っている研究者であり、センスオブアースの理事でもある。日本女子大学でのセンスオブアース(SOE)による環境教育の授業実践は6年目を迎える。

学生たちは、この授業で、まっすぐに、日本の食糧問題と一人ひとりがこの問題に深くかかわっていると感じ取ってくれた。100分の授業の中で、1年～3年の学生たちが感じたコメントの主なものを皆さんにお伝えしたい。

…2ページへつづく▶



参加者と楽しく会話をしながら、目についた植物や鳥について、お話をする藤本先生(右端)

「コナラやクヌギは150種の虫が共生できるのです。」

「コブシの花芽の毛皮は防寒ではなく、鳥や虫に食べられるのを防ぐため。」

「オナモミはカモ類につきやすく、羽づくろいで種が落とされて繁殖する。」

センスオブアース・板橋区エコポリスセンター共催
秋の赤塚自然観察会—不思議発見の赤塚散策

11月22日(日) 午前10時から2時間程度にわたって、赤塚公園の自然観察会(五感を使う観察会なのです)が行われました。講師はシェアリング・アース会長の藤本和典先生です。朝まで冷たい雨が降っていましたが、その雨も上がり、寒かったが傘なしで観察することができました。そのような天候にもかかわらず、14名が参加。コースは、ため池公園を出発点として赤塚城址・大門を経て高島平の赤塚公園へのコースでした。この赤塚地区は、区内でも自然が保存され緑が豊富な地域です。特に、ため池公園から赤塚城址にかけては、昔からの雑木林がそのまま残された所です。途中、何箇所か草

…3ページへつづく▶



●日本が輸入に頼り過ぎていること。40%という数字に驚いた。買い物では、産地をしっかりと見ようと思った。

●もっと、食についてしっかり考えようと思った。高校のとききちんとした賃金を渡して貿易を行う団体があると聞いたので、少し高いけどその物を買おうと思った。

●わが家も買いすぎて腐らせてしまうことがある。親にも今日、学んだことを伝え、多く買わない、買ったなら食べきる、ということをお話しようと思った。

●食べものを捨てないようにしたい。残ったものを他の国々へあげるような仕組みをどのようにしてつくっていきけるか考えたい。

●CO₂の排出量がフードマイレージのキーワードだということ。これは、安全性の問題から国産を選んでいたが、これからは環境に目を向け、捨てたり、残したりしないようにしていきたい。日本が輸入に頼っている国の現状などを調べていきたいと思った。

●日本が貧しい国からの食品に頼っていることにびっくりした。食べものを粗末にはいけないと今まで以上に強く思った。

●輸入食品に対する考え方が変わってきている。国内産が広告でも、大きく売り出されている。家族、友だちに広めていきたい。

●中国産は少なくとも、やはり、海外の輸入に大きく頼って日本人は生きていること。買い物をするときには、産地はどこからなのかということをチェックしてその時にフードマイレージを常に頭に入れておこうと思います。

●日本の真反対の国、モーリタニアから、真タコが来ていること。聞いたことがありませんでした。食べものを買う時に産地を見てから買おうと思う。

●家庭菜園をやってみたいです。自炊をする際には、食べものの食べられるところは全て使うようにしていこうと思った。そして、なるべく、国産のものを選んで買いたい。

●たくさんの食べものが無駄になっていること。輸入によるCO₂の増加の問題。食材が無駄になってしまわぬよう、食べる分だけ購入したいです。また、食材を購入する際に、産地を見て、近くのスーパーや普段買っているものを調べたいと思いました。

●普段の生活をしていると価格の安さとか、手軽さといった自分のことしか考えることのできない生活になってしまうけど、視野を広げると、やはり、大きな問題であると思った。日本のこの現状を、もっとみんなで知ると共に、重大視をする必要がある。

●日本で捨てられる食料の量。家庭菜園をしているので、もっと、品数を増やしていきたいし、買い物に行った際には、産地を見て買いたいと思う。

●輸入品は環境に悪いということ。外国産は味が悪いのでは？ としか考えたことがなかった。値段は高くても、できるだけ国内産の食品を買う。

●日本は捨てる国だということ。買い物をするときは、ちゃんと産地など、見極めて買うようにする。

●野菜以外の肉や魚の国外依存が問題。他の国（自給自足かできていない国）のやり方について学んでみたい。

●地図作りをやって、いろんな国から輸入していることがわかった。私はレストランでバイトをしているが、毎日ものすごい量のパンやご飯が捨てられてしまう。そのことについて最初はもったいない気持ちがあったが、だんだん麻痺してしまっただけ。しかし、これからは、おかしいという意識を持ち続けていきたいと思った。



花や樹木のところで立ち止り、藤本先生の丁寧な説明を聞き、メモをしながら歩きました。林の中で、ヒヨドリ・コゲラ・ウグイス・メジロ等の鳴き声が聞こえます、興味深いお話の一部をご紹介します。

(SOE 柳栄吉)

ヨウシュヤマゴボウ

赤紫色の実を潰して遊んだことがあるが、葉や根に毒があるので気をつけるように。このような有毒植物にキョウチクトウ・チョウセンアサガオ・タバコの葉などがある。



コナラ・クヌギ (ドングリの木)

この木々には150種類の虫がつく。ヒマヤラスギや、メタセコイヤは外来種で、共生できる生きものが極端に少ない。そういうものを植えるのが問題。

クロガネモチ

クロガネモチは南方の木だが、温暖化で咲くようになった。今、赤い実をつけている。

ビワ

メジロが食べやすいように、黄色い実をつける。

ケヤキの幹の冬眠

ケヤキの幹に冬眠している虫は昼夜の寒暖の差が大きいと、死んでしまうので、差の小さい北側に冬眠する。!

オオカマキリ

体の色が緑色と茶色が、50%の割合で同じ親から生まれる。草花の小さな虫を食べる。同じかまきりでも、ハラビロカマキリは木の上についてセミを食べる。

ノビロ

根に球根のように栄養をためていて、人がよく食べる。この栄養のおかげで、地表が刈り取られても、また再生して生きていいける。

街路樹のこと

公園や街路に植えられる樹木は外国産のものが多いが、例えば、大量に植えられている外国産のモクレンよりも、同じようだが、コブシの方を植えたい。日本の在来種 特にその地域に昔から生えている実がなる広葉樹を植えてほしい。鳥や昆虫の生活の場として利用でき、生きものの生態系を回復させることができる

● S.O.E. 活動報告 (2009年11月)

日	曜	内 容
1	日	11月3日板七小4年とうふづくり準備一用具・材料・プログラムの流れ
2	月	同上 材料買い物・スタッフ連絡・学生スタッフへ事務連絡
3	火	11月号 ニュース原稿 学校関係 送付校正
4	水	板橋区立板橋第七小学校 4年生 板七産とうふを作ろう 出張授業
5	木	11月号ニュース原稿関係
6	金	ニュース編集者と連絡打合せ・志村第四小と出張授業打合せ
8	日	SOEニュース11月号発行作業日
11	火	秋の自然と遊ぼう 板七小2年生生活科出張授業 一こうもりとがのネイチャーゲーム・かたち探し採種
20	金	板橋区環境教育プログラム部会出席—プログラム案検討 グリーンホール
22	日	藤本和典さんと歩く「秋の赤塚城址・赤塚公園」感察会10:00~12:00 パーベキュー12:30~2:30 赤塚公園内 14名参加
26	木	区内小学校出張授業 秋の自然と遊ぼう—ネイチャーゲーム 雨のため延期 志村第四小 4年担任と30日の授業打合せ
27	金	日本女子大学 人間社会学部教育学基礎演習 授業「食べ物はどこから」フードマイレージを学ぶ SOE実施 1~3年26名。 授業のあと、SOE学生スタッフがNHK-FM「元香レディオ・ショー」ディレクター堀口航平氏の取材を受ける。
30	月	志村第四小 4年生79名 3・4校時「学校の木を決めよう」環境教育授業実施

● S.O.E. 活動報告 (2009年12月)

2	水	12月号ニュース原稿書き
3	木	活動計画打合せ
6	日	12月号ニュース発行作業
7	月	環境教育プログラム提案検討(とうふづくり・ビオトープを使ったプログラム等)
10	木	板橋区環境教育プログラム部会出席予定
13	日	午前SOEワークショップ・午後エコボ主催「まちの環境発表会」参加
17	木	高島第三中学校 1年4クラス 149名SOE授業「食べ物はどこから」フードマイレージを学ぶ
20	日	授業計画打合せ予定
26	土	全国大学生エコ活動コンクール(～27日まで)
17	土	板橋区立中央中学校 科学クラブ活動 指導者 中里直教諭取材
18	日	SOE・エコポリスセンター共催「エコライフDAY 取り組みの成功の軌跡」NPO法人川口市民環境会議理専長 浅羽理恵氏 講演学習会 於エコポリスセンター 2階環境学習室 1時30分～3時30分
25	日	SOE ワークショップ—10～11月授業準備
29	木	出前授業 板橋第七小学校5年生全 5,6校時「食べ物はどこから—フードマイレージを学ぶ」
30	金	第2回 板橋区環境教育プログラム部会 未定

発行

特定非営利活動法人 センスオブアース・市民による自然共生バンクア

東京事務所 東京都板橋区前野町4-8-6 (〒174-0063) phone: 03-3960-6052 fax: 03-3960-6053
e-mail: info@npo-soe.jp url: www.npo-soe.jp